

2—2年草 1—1年草 木—木本 ・—帰化植物

	6		7		8		9		10
タ	メドハギ	タ	カワラマツバ	タ	イタドリ	タ	ツルヨシ	木	セイヨウハコヤ
"	カワラヨモギ	"	アカネ	1	メヒシバ	"	カワラニガナ	ナギ	3 m
"	オトコヨモギ	"	イノコヅチ	"	ミチヤナギ	1	スベリヒユ		
"	タケニグサ	"	ヘクソカズラ	"	カワラアカザ	木	ツルウメモドキ		
"	カワラナデシコ	2.	ヒメムカシヨモ	木	テリハノイバラ	"	ノイバラ		
"	カワラサイコ		ギ						
2	ビロードモウズ	1	シロザ						
"	イカ幼株	"	オオニシキソウ						
"	アキノノゲシ	木	ナワシロイチゴ						
"	メマツヨイグサ	"	コマツナギ						
"	アレチマツヨイ	"	ヌルデ						
	グサ幼株		1 m ±						
1	ツユクサ								
木	セイヨウハコヤ								
	ナギ 0.5 m ±								

〔植物ニュース〕 30. ハナヒョウタンボク *Lo-nicera maackii* (Rupr.) Maxim.

本種は朝鮮・北支・アムールに分布するが、日本ではきわめて局限されている。岩手県・青森県の一部と長野県・群馬県のごく一部だけから知られている希品である（原寛他：軽井沢の植物）。

1978年10月八ヶ岳山麓、茅野市地籍、渋川溪谷、標高1,500m地点の夏緑広葉樹林内に赤熟した果実をつけた本種を採集した。

これは新産地であるとともに分布の南限である。同定は清水建美博士にお願いした。厚くお礼申し上げたい。（今井建樹）

31. ヒメカンアオイ *Asarum takaoi* F. Maek.

1978年10月、茅野市地籍、蓼科高原、標高1,400m地点のアカマツ林内で数株発見した。分布は福井・静岡以西近畿（杉本順一：日本草本植物総検索誌）となっている。採集地は別荘地帯であり、自然分布かどうか問題があるが、自生状態であった。

分布の北限・東限となるのではないかと思う。

清水建美博士に同定していただいた。厚くお礼申し上げます。（今井建樹）

〔新刊紹介〕 清水建美（監修） 奥原弘人・田中豊雄 「長野県野草図鑑 上、下」 B6判 上巻300頁、下巻300頁。信濃毎日新聞社発行（1978、1979年）各2,000円。

自分達の住んでいる土地に生えている植物の正しい名を知りたいと思うのは、自然を愛し、自然に対する探求心を持つ人であれば誰も抑え難い欲求である。ところが、いざ調べようと思うと仲々適当な参考書がない。大井先生の「日本植物誌」や北村先生他の「原色日本植物図鑑」（木本篇は未完結）など、いずれも植物学の知識がなければ利用し難いし、山野に携行するには大きすぎて不便である。しかし子供からお年寄までが、実物とカラー写真とを比較して植物の名を知ることのできるそんな楽しい本——これが「長野県野草図鑑」上、下で、上巻に302種、下巻に306種、計608種の植物が鮮明なカラー写真と

解説つきで載っていて、写真だけで不十分な場合には線画を補って細部が判りやすいよう考慮されている。著者の一人奥原氏は、永年教育会で活躍されたベテランだけあって短かい解説文にもかかわらず要を得ているし、田中氏の手になる生態写真がまた見事である。ここで一言ふれたいのは、大変地味な監修を引き受けられた清水教授のお仕事ぶりである。清水先生は、本書所載608種の1種たりともないがしろにされず、少しでも疑問のある場合は、御自身得心が行くまで、標本と文献に当られ、場合によっては山野で実物を再確認され、このような信頼度の高い図鑑ができた。現在日本各地で出版された類書の中には、植物名が属まで違っているものさえある。本書は単に長野県内で利用されるだけでなく、野草図鑑の模範として高く評価されるであろう。同形態の「長野県樹木図鑑」の早期出版が望まれる。（H. T.）